



創立 110 周年記念誌

高知県立高知工業高等学校

高知県立高知工業高等学校
創立110周年記念事業実行委員会

創立 110 高知県立高知工業高等学校 周年記念誌



高知県立高知工業高等学校
創立110周年記念事業実行委員会

工業富国基

大正二年
初秋
竹内綱

創立者



竹内綱先生



竹内明太郎先生

工業技術者としての素養

竹内綱

優良なる技術者というものは、次に申す様な素養を持つものでなければならぬ。

- 一、身体の強壮なること。
- 二、技術上の学問の素養のあること。
- 三、学問の素養と相まって、之に副ふだけの実地上の手腕あること。
- 四、右の三つの能力を発揮するに足る人格を備ふること。

(明治四十五年五月四日開校式における演説より抜粋)







高知工業学校校旗

高知工業学校校歌

作詞 工業学校教諭 岡林 九敏
校閲 早稲田大学教授 相馬 御風
作曲 市第三小訓導 岡 寛

一、鯨鯢吼ゆる南溟の

怒濤逆巻く快天地

万岳の翠北に負い

ここに生れし健男児

二、富国の基は工業の

発展進歩にあるそとて

偉人の遺せし勲業ぞ

我が学舎に輝ける

三、火頭水身両翼の

校旗の光燦として

集える健児一千余

向上の意気天を衝く

四、学界彼岸は遠くとも

勇往邁進たゆみなく

造化の宝庫開き得て

いざや尽くさん国のため



高知工業高校校旗

高知工業高校校歌

作詞 田村 司 郎
補作 校歌作成委員会
作曲 平 井 康 三 郎

一、筆山のみどりに映えて

城南の空かがやく朝
たくましき科学の力
建設の息吹いさまし

工業地帯

わが学び舎の希望の窓に
おお雲が呼ぶ 雲が呼ぶ

二、伝統の美風をまもり

集う若人こころは燃えて
あたらしき技術を磨く
この理想つねにかわらじ

工業 高知

わが学び舎の甍の上に
おお虹が立つ 虹が立つ

三、身をきたえあこがれ清く

羽搏かんいざいざ火水鳥
たゆみなき生産の歌
大空にひびけとどろけ

工業 日本

わが学び舎の誇りも高く
おお旗が鳴る 旗が鳴る

(昭和29年11月10日制定)

高知県立高知工業高等学校沿革

1. 名 称 高知県立高知工業高等学校
2. 所 在 地 高知県高知市棧橋通 2 丁目 11 番 6 号 (電話 088-831-9171 番)
3. 沿 革
 - 年月日 記 事
 - 明治 41. 6.18 敷地 2,467 坪 1 号 9 勺 (高知市北与力町) を購入
 45. 2. 8 私立高知工業学校設置申請及び同財団法人設立申請をなす
 - 3.11 財団法人設立の件及び学校設置の件認可せらる
学則第 2 条 本校に本科及び予科をおき本科を分ちて機械科及び電気科とする
第 3 条 修業年限は本科 3 カ年、予科 2 カ年とする
 5. 1 吉崎七次郎氏校長事務取扱となる
 5. 4 県公会堂に於いて開校式を挙行 (之れより本校開校記念日を 5 月 4 日と定む)
 - 大正元 . 9. 5 校舎 1 棟新築落成 鑄造工場、鍛冶工場新築落成 108 坪
 2. 5.22 校地 159 坪 5 号 7 勺を買収
 3. 3.31 新築校舎全部完成 (建坪 250 坪)
 - 4.10. 1 校長事務取扱吉崎七次郎氏校長に昇任、第 2 工場新築工事に着手建坪 108 坪
 5. 2. 4 文部省告示第 13 号を以て徴兵令第 13 条並びに文官任用令第 6 条第 1 号により中学校程度同等以上と認定せらる
 5. 4 採鉱冶金科設置さる
 6. 3.23 第 1 回卒業式を挙行
 4. 1 応用化学科をおく
 4. 1 技術員養成所を増設 (入学資格高小卒、修業年限 5 カ年)
 - 4.10 2 階建校舎 1 棟落成 (建坪 170 余坪)
 9. 1 東北隣地 361 坪を買収
 9. 3.18 生徒定員を本科 240 名、予科 200 名に変更の件文部大臣の認可を受く
 - 3.26 此の日高知工業学校と名称変更の件認可なる
 4. 1 採鉱冶金科を廃止
 11. 4. 1 此の年度より予科本校の別を廃し修業年限 5 カ年となる
 12. 4. 1 大正 11 年末日を以て財団法人私立高知工業学校を解散し竹内氏経営の手を離れて高知県に移管し此の日より高知県立高知工業学校と改称し生徒定員 500 名となる
 15. 5. 4 創立 15 周年記念日に際し創立者竹内綱氏胸像除幕式を挙行
 - 昭和 3. 4. 1 土木科、建築科を増設
 6. 5. 4 創立 20 周年記念式並びに前校主竹内明太郎氏胸像除幕式を挙行
 8. 5.31 初代校長吉崎七次郎氏退職、教諭松本政良氏 2 代目校長に就任
 10. 4. 1 高知県立高知工業実務学校を併置 (県公報)
 - 12.10 高知県立高知工業実務学校を高知県立高知工業青年学校と改称
 - 12.10. 1 第 2 部機械科 (入学資格中等学校卒業修業年限 1 カ年) を増設生徒定員 720 名となる
 14. 4. 1 生徒定員 820 名に変更
第 2 本科電気科、応用化学科 (入学資格高小卒修業年限 2 カ年) を増設、生徒定員 980 名となる
 - 4.26 2 代目校長松本政良氏大分県津久見町立工業学校長に転出に付教諭仙頭隆氏校長事務取扱を命ぜらる
 - 5.23 校長事務取扱仙頭隆氏逝去に付教諭森本長太郎氏校長心得を命ぜらる
 15. 2.21 校長心得森本長太郎氏 3 代目校長を命ぜらる
 4. 1 第 2 本科機械科を増設、生徒定員 1,060 名となる
 16. 3.31 第 2 部機械科を廃止、生徒定員 1,040 名となる

- 昭和 16. 4. 1 第 2 本科建築科を増設、生徒定員 1,120 名となる
17. 4. 8 校地狹隘の為高知市北与力町より現在の高知市棧橋通 2 丁目に移転敷地 9,700 坪（登記面積）内 220 坪私設道路、建築敷地 2,437 坪（延 3,053 坪）運動場 3,780 坪となる
19. 4. 1 応用化学科を工業化学科と改称
20. 7. 4 空襲の為全校舎、工場、図書館、道場等を全焼
9. 1 本校事務所を高知県工業試験場に置き、分散教育の事務を執る
10. 1 授業を工業試験場、私立商業学校、海南中学校、長岡組合立小学校、県造船株式会社島工場、高須小学校、高岡高等小学校、須崎小学校等を借りて開始
21. 3.31 第 2 本科を廃止、生徒定員 1,000 名となる
- 9.10 仮校舎 5 棟 1,140 坪（内 4 棟 1,004 坪は海軍航空隊仁井田兵舎を譲り受けて移築、1 棟 130 坪は県造船の工場を移築し機械工場）落成に付全校生徒を収容して授業開始
23. 4. 1 新制高等学校令により高知県立高知工業高等学校が設置され工業学校 4、5 年生は同高等学校に編入され 2、3 年生は併設中学校生徒となる（高等学校設置課程は機械、電気、工業化学、土木、建築）
6. 1 土木、建築につき定時制（昼間授業 4 カ年）の課程を置く
24. 1. 8 第 2 棟 2 階建東半部延 290 坪の校舎落成（普通教室 4、電気実験室等）
- 3.31 併設中学校廃止、定時制に機械、電気、工業化学の課程を増設夜間授業に切り替う
森本長太郎氏退職、森岡貞篤氏 4 代目校長に就任
9. 1 第 2 棟西半部延 270 坪の校舎落成（普通教室 7、製図室 1）
県下高等学校再編成により県立高知工業高等学校と高知市立工芸高等学校を統合し高知県立高知工業高等学校となし全日制の設置課程は機械、電気、工業化学、土木、建築、木材工芸の 6 科となり工芸高等学校職員生徒は工業高等学校へ移って授業を行う。但し工芸実習工場は当分元の工場設備を使用（高知市大原町 180、2 棟 120 坪及び 78 坪）生徒数 1,100 名となる。尚工芸高等学校 1 カ年制の建築別科生 13 名も収容
25. 3.31 建築別科廃止
- 5.15 第 1 棟本館 2 階建西半部（10 教室、附属便所、廊下 251 坪）竣工
- 7.14 機械実習工場（136 坪）大修理竣工、之は元県造船会社所有建物を昭和 24 年度県有に移管した杉皮葺バラック建築を瓦葺とし更に補強改修す
9. 9 工業化学実験室（139 坪）竣工、之は都市計画に関連し計画線外にあるバラック建 4 教室（164 坪）を移転改築す
12. 8 第 1 棟本館 2 階建中央以東部延 290 坪（玄関、事務室、校長室、応接室、職員室、宿直室以上 1 階 145 坪、普通教室 4、合併教室（以上 2 階建 45 坪）衛生室 7 坪、小使室 17.5 坪、便所 2 坪、物置 4 坪、廊下 36 坪（中央 24 坪、東端 12 坪）合計延 356.5 坪、起工式竹村建設合資会社四国営業所所長代理岡部芳明 高知市知寄町 1 丁目 32 番地、現場監督鈴木一幸、工事請負
26. 6. 8 上の工事竣工検査合格 6 月 10 日より使用す
27. 3.31 八木生幹氏（旧 小松）5 代目校長となる
4. 1 第 7 棟木材工芸科木材試験室、木材工作室、塗装室、倉庫等（120 坪）清水建設株式会社にて完成
第 8 棟機械科材料試験室、製図教室、精密測定室、機械科職員室等（123 坪）清水建設株式会社にて完成
7. 1 電気科卒業生に対し電気事業主任技術者資格検定の第 1 次試験免除の認可を受ける
28. 3.31 第 9 棟階下木材工芸製図室、芸能室、理科室、準備室、階上土木製図室、建築職員室、準備室、建築製図室等（延 380 坪）完成
29. 3.31 第 4 棟土木科水理実験室、土木実習室、土木科職員室、測量器室、準備室等（100 坪）完成
32. 3.20 鋳物工場、鉄骨平屋建日本瓦葺 70 坪完成
- 3.31 戸梶徳喜氏 6 代目校長となる
- 33.10. 1 近森盛之助氏校長事務取扱心得となる
34. 2.28 建築科、工芸科、機械科、木工場木造平屋建アルミ瓦葺 134.5 坪完成
渡り廊下木造平屋建厚型スレート葺 6 坪完成
4. 1 森岡貞篤氏 7 代目校長となる

- 昭和 35. 3.20 給食場木造平屋建瓦葺 15.5 坪完成
- 3.31 配電室コンクリートブロック造平屋建 12.5 坪完成
11. 1 屋内体育館兼講堂鉄骨造り一部 RC 造延 335 坪完成
36. 4. 1 戸梶徳喜氏 8 代目校長となる
37. 3.15 図書館（同窓会館）鉄筋コンクリート造り、2 階建延 120 坪完成
- 3.31 化学実験室延 106.45 坪完成
37. 5. 4 開校 50 周年記念、工業図書館落成記念式典を行う
- 11.24 木材工芸科を工芸科と改称
38. 3.31 機械科、工芸科実習室、鉄筋コンクリート造り、延 212 坪完成（1 階原動機室、鍛造室、溶接室 106 坪、2 階美術室 106 坪）此の間工芸科塗装室は約 15m 南方に移動
39. 3.19 機械科機械工場、鉄筋コンクリート造り 174.16 坪完成面目を一新す
- 3.31 体育館兼講堂と第 1 棟舎西端とを結ぶ渡り廊下コンクリートブロック積瓦棒葺、23 坪完成
 - 4. 1 県立工業試験場改築に伴いその敷地の西北隅の 1 部を本校に移管
 - 4.15 格技場 52.5 坪完成（元の県立工業試験場建物を補修、改造したもので本校正門すぐ南前）
- 40.10.20 防火書庫 3.9 坪完成
42. 2. 2 工芸科実習室、鉄筋コンクリート造り 174 坪完成
43. 3.30 化学科化学実験室（北棟）鉄筋コンクリート 2 階建が完成した
44. 1. 1 校地番が棧橋通 2 丁目 11 番 6 号と改称される
- 3.31 第 1 号校舎完成鉄筋コンクリート 4 階建一部を残し、普通教室 12、理科室、物理及び化学教室 518 坪完成し、面目一新の一步ふみ出す
 - 12.10 第 1 号校舎全て完成（全 2,206㎡）
45. 3.31 第 2 号校舎完成鉄筋コンクリート 4 階建、普通教室 10、視聴覚教室、美術室、電気科実験・実習室、製図室（35.638㎡）完成、更に充実する
- 4. 1 塩田一郎氏 9 代目校長となる
46. 3.31 本館落成、鉄筋コンクリート 3 階建事務室、進路指導部室、応接室、校長室、相談室、全・定職員室、情報技術科実験実習室完成（1,270㎡）面目一新する
- 4. 1 情報技術科を設置する
 - 6.22 プール竣工 25m・8 コース
47. 3.31 土木科・建築科実験・実習室鉄筋コンクリート 4 階建 2 分の 1 完成
48. 2.19 第 1 号校舎南側に格技場完成（350㎡）
- 3.31 土木科・建築科実験実習室、鉄筋コンクリート 4 階建残り 2 分の 1 落成（2,268㎡）、本館 3 階に情報技術科実習室増築
 - 4. 1 工芸科をインテリア科と改称する
49. 3.31 食堂一部完成（鉄骨造平屋 202.5㎡）
- 4. 1 田口信雄氏 10 代目校長となる
 - 9. 9 食堂落成（300㎡）
 - 11.10 中庭園の落成（600㎡）
 - 11.30 校舎落成、創立 60 周年記念式典盛大に挙行される
54. 3.31 機械科棟落成（841.50㎡）
55. 4. 1 大畠正賢氏 11 代目校長となる
- 56.12.16 図書館増築落成（図書館 74.78㎡・渡り廊下 19.24㎡）
57. 3.31 体育補助施設落成（鉄骨造 2 階建 609㎡）
- 防球フェンス落成（L169m、H 7 m）
 - 受水槽落成（FR.P. サンドイッチ構造 25t）
- 5. 4 開校 70 周年記念式典、校旗贈呈
58. 3. 7 工業化学科実験・実習棟完成（RC 2 F 440.61㎡）

- 昭和 59. 4. 1 毛利敬一氏 12 代目校長となる
 - 8.24 ちり焼場設備更新 (ひかり焼却炉、鉄骨造)
- 60. 2. 5 工業化学科実習棟落成 (プラント、薬品庫 RC 平 110㎡)
 - 3. 5 旧市道敷地 429㎡、高知市と交換による取得
 - 3. 9 屋外生徒便所落成 (RC 平 1,400㎡)
 - 3.30 生徒自転車置場落成 (鉄骨造平屋建 15,400㎡)
- 62. 4. 1 情報技術科学級増 2 学級定員 80 名となる
- 63. 2.25 燃料庫完成 (スレート瓦平屋建 13.76㎡)
 - 3. 7 情報技術科棟落成 (鉄筋 4 階建 1,352.16㎡)
 - 3.31 自転車置場完成 (鉄骨造平屋建 51.45㎡)
- 4. 1 中村富和氏 13 代目校長となる
- 平成 2. 4. 1 旧工業試験場跡地本校学校用地に所管換えとなる (6,215㎡)
 - 3. 1.25 自転車置場完成 (鉄骨平屋建 60.48㎡)
- 4. 4. 1 宮田隆弘氏 14 代目校長となる
 - 10. 8 自転車置場完成 (鉄骨平屋建 158.6㎡)
 - 10.31 体育館竣工 (1,644.40㎡)
 - 11.22 創立 80 周年並びに体育館落成記念式典挙行
 - 12.10 テニスコート移設 (新体育館南)
- 5. 3.31 旧体育館、旧食堂解体
 - 4. 1 情報技術科学級減定員 40 名となる
 - 7.30 家庭科棟落成 (鉄骨平屋建 420㎡)
- 6.10.23 本館・1 号館外部大規模改修完了
- 7. 4. 1 野町幸一氏 15 代目校長となる
 - 11.22 2 号館外部大規模改修完了
- 8. 3.31 景観整備 (電車通側外溝・門) 工事落成
 - 4. 1 機械科学級減定員 40 名となる
 - 6.18 創立 80 周年記念庭園完成
- 9. 5. 4 創立 85 周年記念行事を行う
 - 7.12 創立者竹内綱・明太郎先生伝記「工業ハ富国ノ基」出版記念式を行う
- 11.15～16 定時制開校 50 周年記念祝賀行事を行う
 - 10. 5. 2 同窓会奨学資金貸与を総会にて承認
- 11. 3.31 定時制工業化学科を廃止
- 12.10.31 創立記念碑除幕式 (開校の地：高知女子大学)
- 13. 4. 1 包國勝氏 16 代目校長となる
- 14. 4.21 創立者竹内綱・明太郎先生 顕彰記念碑除幕式 (生誕の地：宿毛市)
 - 5. 2 創立 90 周年記念式典・記念講演を行う
- 15. 3.27 部室棟落成 (2 棟 276.1㎡)
- 16.11.26 石川県立小松工業高等学校と姉妹校締結
- 18. 4. 1 平田健一氏 17 代目校長となる
- 19. 4. 1 定時制課程に単位制を導入する
 - 10.31 定時制開校 60 周年記念講演を行う
 - 11.12 創立 95 周年記念講演を行う
- 20. 4. 1 インテリア科を総合デザイン科に改編
 - 8.23 プレハブ部室 6 室 (44.4㎡)・倉庫 1 室 (2.38㎡) 新設
- 21. 3.31 防火戸改修 (本館・1 号館・2 号館) 工事竣工
 - プール改修 (ポンプ室・日除け・目隠しフェンス増改修) 工事竣工

- 平成 22. 3.24 3号館 2階女子専用便所改修（新設4器・既存3器 計7器）工事竣工
 3.25 転落防止用手摺設置（本館3階・2～3号館3～4階）工事竣工
 3.29 校旗等掲揚ポール設置（本館玄関南側5m1本・6m1本・5m1本 計3本）
 11.30 1号館棟耐震化工事（転落防止用手摺設置含）完了
 12.10 太陽光発電設備設置（体育館南傾斜屋根設置 3寸勾配・太陽電池モジュール容量30KW）工事完了
23. 1.11 校訓「磨け学技 鍛えよ体徳 誇れ郷土」を制定する
 8.10 本館棟耐震化付帯工事・本館西側ボイラー室（機械・油庫）解体撤去
 自転車置場（体育館北側5基・168㎡）撤去
 8.24 2号館3階女子専用便所改修（新設3器・既存4器 計7器）工事完了
 11.30 本館棟耐震化工事（屋上防水施工・本館西側受水槽新設（18㎡）含）完了
 12.10 1号館東旧受水槽（S57. 3月新設アルミパネル2.5×5.0×2.5m）撤去
24. 6. 6 図書館新築（RC2F・539.83㎡）自転車置場設置（体育館北1基・17㎡）
 9. 3 創立100周年記念校訓モニュメント除幕式
 9.24 旧図書館解体（RC2F・452.7㎡）自転車置場解体（旧図書館北1基・41㎡）
 11. 2 自転車置場設置（旧図書館跡4基・183㎡）
 11. 3 創立100周年記念式典を行う
25. 1. 9 2号館耐震補強工事完了 自転車置場設置（2号館北2基・71㎡）
 4. 1 横畑健氏18代目校長となる
26. 1.31 4号館耐震補強工事完了
 3.25 3号館耐震補強工事（建築科作業室28.27㎡増設含）完了
27. 3.10 5号館耐震補強工事完了
 3.20 鋳造実習棟改築工事完了
 格技場改修工事完了
 4.22 格技場（相撲場）改築工事完了
29. 3.27 旧木造校舎解体 倉庫新設工事完了
30. 3.28 ブロック塀改修工事完了
- 令和 2. 4. 1 北村晋助氏19代目校長となる
 2.12.14 空調設備更新工事完了
 3. 1. 7 体育館非構造部材等耐震化工事完了
 4. 1.30 創立110周年記念植樹式
 4.29 創立110周年記念式典を行う
4. 学校建物等 普通教室 1,620.00㎡（27教室） 体育館 3,465.58㎡
 実験実習室 9,496.01㎡ （格技場体育補助施設を含む）
 管理関係等 8,696.24㎡ 合 計 23,277.83㎡
5. 学校用地 建物敷地 26,066.12㎡
 運動場 13,000.00㎡
 その他 12,456.88㎡ 合 計 51,523.00㎡

目次

※敬称略

創立者 竹内綱、明太郎父子
高知工業学校校旗・校歌
高知県立高知工業高等学校校旗・校歌
学校航空写真
高知県立高知工業高等学校沿革の概要

挨拶	実行委員長	右城 猛	・・・・・・	1
挨拶	学校長	北村 晋助	・・・・・・	2
祝辞	高知県知事	濱田 省司	・・・・・・	3
挨拶	高知県教育長	長岡 幹泰	・・・・・・	4
生徒代表挨拶	生徒会長	伊藤 七生	・・・・・・	5

創立110周年記念事業

記念植樹	・・・・・・	6
歴史的機械展示室の整備	・・・・・・	7
記念募金購入車	・・・・・・	8
記念式典	・・・・・・	9
記念祝賀会	・・・・・・	12
記念講演	・・・・・・	13

近史10年間の歩み

110周年に寄せて 同窓生より

岡崎 洋一郎	・・・・・・	25
武内 則男	・・・・・・	29
西原 功起	・・・・・・	33
寺川 湖砂	・・・・・・	36
浅利 友美	・・・・・・	38
保川 明香里	・・・・・・	41

協賛広告

愛校募金・愛校奉加帳	・・・・・・	120
------------	--------	-----



創立 110 周年記念事業について



高知県立高知工業高等学校
創立一一〇周年記念事業実行委員会
実行委員長

右
城

猛
(土木科 昭和四十五年卒業)

創立 110 周年記念事業におきましては、同窓会や企業の皆様からたくさんの愛校募金、協賛広告をいただき、ありがとうございました。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、社会活動が思うようにできない中にも関わらず、多くの皆さまから心温まるご支援をいただき感謝の念に堪えません。

令和 3 年 4 月に実行委員会を立ち上げ、学校の要望をお聞きしながら記念事業を進めて参りました。筆山山頂への記念植樹、機械科展示室の整備、学校へ生徒送迎用大型ワゴン車と校舎正面に設置する懸垂幕の贈呈、そして創立 110 周年記念誌の発行をさせていただきました。現在は、平成 23 年以來となる同窓会員名簿発刊の準備を進めているところでございます。

4 月 29 日の記念式典は足下の悪い雨の中の開催となりましたが、濱田省司高知県知事様、長岡幹泰教育長様、小松工業高等学校関係者の皆様、企業や同窓会の皆様にご臨席を賜り、在校生 750 名を含めた約 1,100 名が高知県民体育館のフロアを埋め尽くし、盛大に式典を開催することができ、感無量の極みでありました。心より御礼申し上げます。

記念講演では京都大学の木村亮先生に、「学校を作っても、病院を作っても、道が通れないと使えない」「自分たちの道は自分たちで直し、貧困を撲滅させる」という理念で、「土のう」による道直しの技術を開発途上国 30 カ国に普及させているというお話をしていただきました。

先生の講演をお聞きしながら、アフガニスタンで活動されていた医師・中村哲先生を思い出していました。「飢えと渴きは薬では治せない」、「百の診療所より一本の用水路」と、自らバックホーに乗り用水路を作っていた中村先生の姿と木村先生が重なって見えました。

木村先生や中村先生のように大きな志を持った人が、高知工業高等学校の同窓生から現れることを願ってやみません。

記念演奏では、山田太鼓伝承会の皆様による迫力ある和太鼓の演奏が心に響きました。特に、リーダーの西岡様の演奏には、鬼気迫るものを感じました。演奏の後、車椅子に乗っておられた西岡様に「足はどうされましたか」とお尋ねすると、「ガンで腰骨がポロポロになっており、歩けないのです。余命もあまりありません」というお話でした。そのような体にも関わらず、渾身の力を振り絞った演奏は感動を与えてくれました。感謝の念に堪えません。

木村先生の講演と山田太鼓伝承会の皆様の演奏は、在校生諸君の心にも深く刻み込まれたことと思います。

記念祝賀会は、出席者に抗原定性検査等で陰性確認をしていただくなど高知県の新型コロナウイルス感染症防止対策方針に従って開催させていただきました。

マスク会食でありましたが皆様と親睦を深めることができ、思い出に残る楽しい祝賀会になりました。ご出席下さった皆様にご心より御礼を申し上げます。

同窓会では、母校のさらなる隆盛・発展を支援するための活動をしています。今後とも皆様のご協力、ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

記念誌の発刊に寄せて

この度、高知県立高知工業高等学校は創立 110 周年という節目の年を迎えることができました。これもひとえに同窓会をはじめ、保護者や地域の皆様のご尽力、ご支援によるものと深く感謝申し上げます。4 月 29 日には、高知県知事 濱田省司様をはじめ、多数のご来賓、協賛企業、同窓会、保護者の皆様のご臨席を賜り、高知県立高知工業高等学校 110 周年記念式典を盛大に挙行することができました。また、協賛企業、同窓会の皆様方には、物心両面にわたって多大なご支援、ご協力を賜り、重ねて厚く御礼申し上げます。

さて、本校は実業家であり、政治家としても活躍された宿毛市出身の竹内綱、竹内明太郎父子の「工業富国基」との崇高な理念のもと、明治 45 年、私立高知工業学校として創立されました。高知県の工業教育の原点であり、歴史と伝統のある工業高校として、卒業生はこれまでに三万人を超え、産業界、経済界は言うに及ばず、各界で活躍し、我が国の産業社会の礎となり、経済の発展に大きく貢献してまいりました。

明治 45 年 5 月 4 日の開校式で、創立者竹内綱先生は、「日本の富を造るのは工業の発展を図る以外にはない。」「工業を発展させるには、工業教育を盛んにして優秀な技術者を養成することが必要である。」との趣旨を演説されました。創立者の理念「工業富国基」、翌年来校されて揮毫された書は、今も校長室に掲額されています。また、演説の中で工業教育の理想も語られ、その創立者の思いが込められた校訓が「磨け学技、鍛えよ体徳、誇れ郷土」であります。この校訓、創立者の思いを常に心にとめ、社会に貢献する優れた技術者となることが高知工業生の使命であります。竹内綱先生は、1922 年（大正 11 年）1 月 9 日に 82 歳で生涯を閉じられ、今年没後 100 年の節目の年を迎えております。

一方、竹内明太郎先生は、早稲田大学理工学部の開設にも尽力し、そして、世界的な建設機械メーカー小松製作所を創業するなど、日本の工業の発展と人材育成に生涯をかけられました。早稲田大学とは教員研修や開校記念講演などで交流を続けており、また、小松製作所の支援で創立された石川県の小松工業高等学校とは姉妹校として課題研究発表会で交互に生徒を派遣するなど交流させていただいております。創立者の思いは企業やそれぞれの教育機関で受け継がれ、社会の発展に大きく貢献しております。

今なお、先が見通せないコロナ禍の中で、今までとは違う日常、Society 5.0 という超スマート社会の到来、SDGs 持続可能な社会の実現への取組など、世界は大きく変化しております。そして、環境破壊、貧困や飢餓、暴力や差別など多くの課題に苦しんでいる人々があります。私たちは、世界中の人々が平和で、そして平等で、持続的に暮らし続けることができる社会を実現するため、一人一人が取り組んでいかなければなりません。生徒の皆さんには、創立 110 周年、また、創立者竹内綱先生の没後 100 年という節目にあたり、これまでの歴史を振り返るとともに、創立者の理念「工業富国基」を改めて胸に刻み、志を高く、夢や目標、そして、平和で豊かな社会の実現を目指し、更に未来に向かって羽ばたき、挑戦し続けてほしいと願っています。

終わりにあたりまして、創立 110 周年記念行事にご支援ご協力を賜りました協賛企業、同窓会、保護者の皆様、また、関連事業にご尽力いただきました関係企業の皆様など、多くの皆様方に重ねて感謝申し上げますとともに、皆様のご多幸と益々のご活躍を祈念し、記念誌発刊のご挨拶といたします。



高知県立高知工業高等学校長

北村晋助

祝 辞



高知県知事
濱田省司

高知県立高知工業高等学校の創立110周年、誠にありがとうございます。
高知工業高等学校は、明治45年の開校以来、長きにわたって地域の若者の夢を支え、学びの場を提供し続けてこられました。このたび110周年の節目を迎えるにあたり、多くの卒業生やその保護者の皆さま、教職員の皆さまはもとより、学校を見守り続けてくださった地域の皆さまにおかれましても、その感慨はひとしおのことと思います。

本校は、明治45年に私立高知工業学校として設立され、宿毛市出身の創設者竹内綱先生は開校式において、「我が国は古来農業国で農を以て立国の基としてきたが、今後は国を豊かにするのは工業の発達を図るよりほかに道はない」との趣旨の演説をされました。この趣旨が、工業教育の崇高な理念「工業は富国の基」であり、110年たった現在もこの理念は、高知工業高校はもとより日本の産業、経済等においても継承され、今日の我が国の経済成長につながっているものだと思います。

現在、卒業生の総数は全日制・定時制課程を合わせて3万人を超え、高知県内はもとよりさまざまな地域で産業界を支え、ご活躍されています。また、部活動では全国大会や各種コンテストで多数入賞され、国際大会に日本代表選手として出場されるなどの輝かしい成果を上げており、特に、昨年の高校生ものづくりコンテスト全国大会測量部門では土木科の女子生徒のチームが全国優勝を成し遂げられています。そのほか、各専門学科では資格取得にも積極的に取り組まれ、全国工業高等学校長協会から全国上位30校の表彰を受けるなど、文武両道を実践されています。

10年前の創立100周年においては、学問と技術・技能を磨き、体と人としての倫理を鍛え、生まれ育った高知を誇りとしてグローバル社会を生き抜く人材となることを目標に「磨け学技、鍛えよ体徳、誇れ郷土」を校訓として定められました。このことは、県が産業振興計画の中で示している本県の目指す将来像である「地産外商が進み、地域地域で若者が誇りと志を持って働ける高知県」という姿に通じております。高知工業高等学校の卒業生が、この校訓のもと、郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材として、益々ご活躍されることを期待しております。

また、県が策定しております「第2期教育等の振興に関する施策の大綱」においては、知・徳・体の調和のとれた生きる力の育成に向けた基本方針の1つとして、「チーム学校」の推進を位置付けています。ものづくりを通じた人づくりを行い、地域に貢献している今日の高知工業高等学校の姿は、地域や保護者の皆さま方の温かいご支援やご協力を得ながら、生徒・教職員の皆さんが、一丸となって努力を続けてこられた賜物であり、まさに、「チーム学校」を体現したものです。高知工業高等学校において、これまで築きあげてこられた伝統を継承しながら、今後も、学校と地域が連携して、生徒の夢の実現に取り組んでいただきたいと思います。

学校の主人公である生徒の皆さん、この学舎での皆さんの充実した毎日が新たな伝統となり、これから後に続く若者の目標にもなります。この意義深い110年の歴史をしっかりと受けとめ、仲間と切磋琢磨しながら、高知の未来をともに支える人材としてたくましく成長することを心から願っております。

結びにあたり、輝かしい伝統を築いてこられました卒業生や歴代の教職員の皆さまに心から敬意を表しますとともに、この110年間に賜りました保護者や地域の皆さま方の深いご理解とご協力に感謝申し上げます、あわせて高知工業高等学校の益々の発展をご祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

挨拶

このたび、高知県立高知工業高等学校が創立110周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

本校は、明治45年に宿毛市出身の実業家、綱・明太郎父子の「工業は富国の基」の理念に基づき、工業技術者を育成する高知県下唯一の工業教育機関として創立され、「磨け学技」、「鍛えよ体徳」、「誇れ郷土」の校訓のもと、地元根差した工業高等学校として、歴史を刻んで参りました。

また、地域の方々の教育に寄せる熱い思いに支えられながら、伝統的な技術から高度な最新技術の習得まで、時代の進歩に応じた特色ある工業教育を行ってまいりました。現在は、機械科、電気科、情報技術科、工業化学科、土木科、建築科、総合デザイン科の7科を設置し、毎年多くの優れた工業技術者を社会に送り出しております。

在校生の皆さんは、高い志をもち、様々な職業資格の取得や全国レベルの大会やコンテストへの挑戦など、工業技術、技能の向上を目標に日々研鑽されています。そして、多くの生徒が所属する部活動においても、四国大会や全国大会に出場するなど、文武両道の教育が行われております。これもひとえに、校長先生をはじめとする教職員の方々の熱意と使命感、地域の皆様や保護者の皆様、母校への熱い声援を送ってこられた同窓の方々のご理解とご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

さて、近年、急速な技術革新により、AIやIoTなど先端技術がさらに高度化するとともに、それらの技術があらゆる産業や社会生活の中に取り入れられた「Society5.0」の到来によって、社会の在り方そのものが大きく変化することが述べられています。さらに、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大や気候変動などの影響により、今後ますます先行き不透明な「予測困難な時代」を迎えるとも言われています。このような時代を生き抜くためには、多くを学び、経験し、自らを鍛え、磨くことはもちろんのこと、他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働していく姿勢をつくっていくことが重要です。そして、社会的変化を乗り越えながら、より良い社会の創り手となっていかなければなりません。これまで生徒の皆さんは、探究活動として取り組んでいる「イノベーションKT」や、課題研究などにおける「ものづくり」を通して、試行錯誤を繰り返し、他者と協力していくことで、より最適な解を求める手立てや課題を解決する方法を身につけてこられたことと思います。これらの経験は、今後皆さんが自らの可能性を最大限に発揮し、社会を支え、幸福な人生を切り拓いていく糧となってくれるものだと思います。

生徒の皆さんは、諸先輩方が築いてこられた伝統と歴史を受け継ぐとともに、今まで以上に勉学に励み、創造力を働かせて様々な事に挑戦し、地域社会に貢献できる人物として、大きく成長してくださることを願っています。

最後になりますが、関係者の皆様、保護者、同窓の方々、そして、教職員や生徒の皆さんに心からお喜び申し上げますとともに、これからの高知工業高等学校の歴史にさらに輝きが増えられますよう、今後とも一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶といたします。



高知県教育長
長岡 幹 泰

生徒代表挨拶



生徒会長

伊藤 七生

本日は、このような式典に参加させていただきありがとうございます。創立110周年という、記念すべき年に在学できたことをたいへん光栄に思います。また、先輩方の歩んできた歴史をあらためて振り返り、歴史と伝統のある高知県立高知工業高等学校の生徒として、身の引き締まる思いです。我々在校生は、その歴史と伝統を汚すことがないように、より一層の自覚と責任感をもち、今日の式典を、今一度、自分自身を見つめなおす機会としたいと思います。

今、世界では、新型コロナウイルスの影響や紛争などにより、多くの人々が苦労を強いられ、多くのものが奪われています。高知工業高校でも新型コロナウイルスの感染対策のため、大きなイベントや行事が中止となってしまいました。

しかし、困難な時こそ、本校の校訓である「磨け学技 鍛えよ体徳誇れ郷土」の教えの下で学び、就職・進学していった先輩方の多方面で活躍をなさっている姿が励みとなりました。いずれは、私たち在校生も様々な分野で活躍できるように、日々の勉強や資格・検定の取得など、今できることに精一杯取り組んでいます。また、本年度行われる予定の文化祭についても、感染対策をとりながら、どのような企画なら実施できるのか、生徒会を中心に知恵を出し合って検討しているところです。

新型コロナウイルス感染症の影響を一番受けたのは、部活動です。練習時間や対外試合などの制限があり、思うように練習できない状態が続きました。そんな中だからこそ、時間を有効に使う力が身についたと思います。限られた時間の中で機敏に行動し、練習メニューや時間配分を工夫してきました。また、先輩や先生方から、挨拶や礼儀とともに、周りへの感謝の気持ちを持つことの大切さも学びました。私自身も部活動を通じて、体力面だけでなく精神面でも大きな成長を感じています。

今年の1月には、生徒会の代表生徒が創立110周年記念の記念植樹にも参加させていただきました。植樹した桜に負けずに、私たちも美しい花を咲かせられるよう、これからの高校生活をさらに充実させ、勉強、部活動、資格取得などに精一杯取り組んでいきたいと思います。

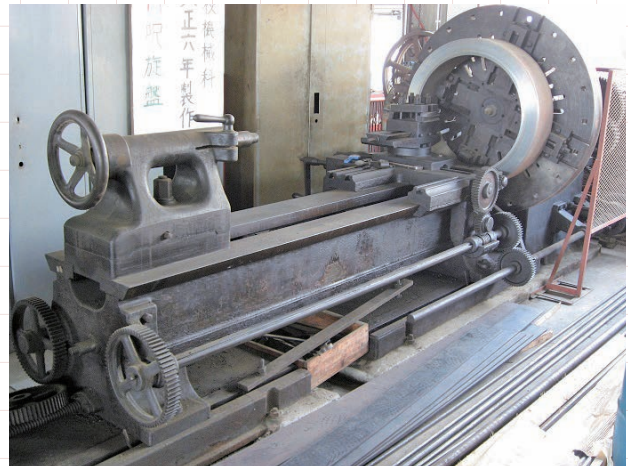
最後に、この式典にご臨席くださいました皆様に心よりお礼申し上げ、生徒代表の挨拶といたします。

記念植樹

令和4年1月30日に、筆山にて記念植樹式を挙行了しました。式典では、創立110周年とともに、1月9日に創立者である竹内 綱先生が、没後100年を迎えたことも記念し、計2本の「しだれ桜」を植樹しました。



歴史的機械展示室の整備



大正6年に本校機械科が製作した14呎旋盤



記念募金購入車



創立 110 周年記念募金で購入 10 人乗りハイエースワゴン車



記念式典



生徒席



協賛企業席



学校長式辞



学校長式辞



実行委員長挨拶



教育長挨拶



姉妹校 石川県立小松工業高等学校 学校長



知事祝辞



生徒会長挨拶



目録贈呈



生徒席

◆ 記念講演



記念講演講師



記念講演



会場風景

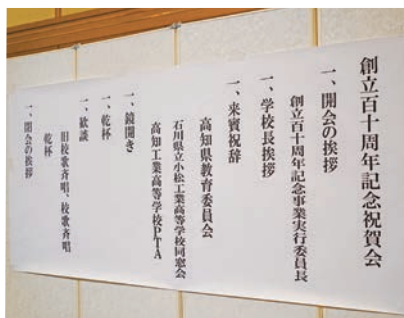
◆ 記念演奏



山田太鼓伝承会による記念演奏



記念祝賀会



実行委員長挨拶



学校長挨拶



鏡開き



石川県立小松工業高等学校同窓会会長挨拶



PTA 会長挨拶



前同窓会会長による乾杯のご発声



実行委員長と前同窓会会長



会場風景

「住民との道直しで 世界の貧困を削減する」



京都大学大学院工学研究科教授
認定 NPO 法人道普請人理事長 木村 亮 氏

世界の開発途上国の多くでは、農村道路の管理が十分ではありません。とくに雨季になると、およそ半分の農村道路が通行不可能になってしまいます。道が通れなくなってしまうと、作物を市場に持っていくことができなくなり、お金を得る手段を失ってしまいます。また、病気の人を町の病院まで連れて行けなくなるとともに、子どもたちも、学校に行くことができません。よって、これらは開発途上国の発展を妨げる大きな要因となっています。

私たち、道普請人（みちぶしんびと）はこの課題に対して、活動を実施しています。私たちは「土のう」を用いた道直し技術である「土のう工法」を、毎日、農村道路を使う地域住民に伝え、より豊かな生活を送れるように、一緒に活動しています。活動を通じて、「自分たちの道は自分たちで直せる」という意識が広がっています。現地で調達可能な土を、土のう袋に詰め、紐で口を固く縛り、出来上がった土のうを補修箇所綺麗に並べます。そして、締固め、上から土砂を被せる工法で、道を直しています。

この「土のう工法」には4つの利点があります。一つ目は、現地で調達可能な道具のみで、農村道路が修復できるという点です。土のう袋や土、砂利は作業が行われるコミュニティ内で入手可能です。二つ目は、土のう工法が人力を必要とする点です。これにより、地域コミュニティに雇用を生み出すことができます。三つ目は、簡単な知識のみで実践可能という点です。専門的な知識・スキルを要さないため、プロジェクト終了後も維持管理が容易にでき、活動の維持発展性を保つことができます。最後に土のうは比較的頑丈であり、土のうを用いて整備された箇所は長持ちし、一般的には10年以上は使用できます。

2005年にパプアニューギニアで行われた活動を発端に、現在、道普請人は世界31カ国で活動を展開しています。そのうち、18カ国はアフリカの国です。また、私たちの活動へ参





加した訓練生の数は、およそ 2 万人に上ります。訓練生の中には、自分の会社を立ち上げたメンバーもあり、コミュニティ内に新しい雇用を生み出しています。

どんな家庭環境であれ、自分の実力を尽くし、想いを強く持てば、自分を変え、人々の生活を支えるチャンスを手にする事ができます。訓練生の中には、国からの給付金に頼る生活を送り、お酒に溺れ、薬物に手を染めてしまう若者もいました。しかし、道普請人の活動を経て、力強く生きることができるようになった訓練生も数多くいるのです。

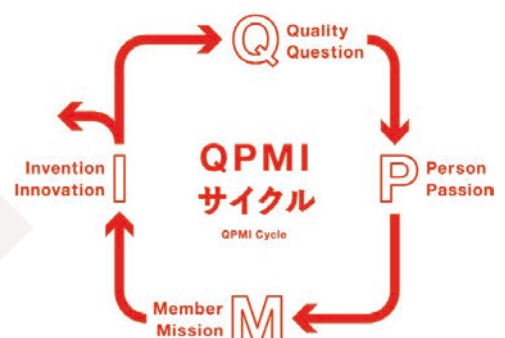
国際技術協力において、技術者は、現象の複雑で、各地域で様々な問題を抱えています。よって、ものごとを観察する力や現象を単純化することが大切です。それは、今まで行なってきたことではなく、発想の大転換が必要となってくるため、君たちの若者の力が必要です。

また、QPMI サイクルの視点をもってほしいです。まずは、Q: question で、問題を発見し、「うまく解決することはできないだろうか?」と、感じ考える。つぎは、P: passion で「情熱」が重要です。その情熱こそが、M: mission へとつながり、活動する集団となります。それこそが、それが I: innovation となり、世の中を変えていきます。

私は、人並み以上に passion (情熱) があります。それが、活動を生み、イノベーションにつながっているのです。皆さんも、情熱をもって活動することで、世の中を変えていきましょう。

私たち、道普請人はこれからも、彼らの未来に向けて、粘り強く活動を続けて参ります。私たちが掲げる「開発途上国の問題は、現地に適したやり方で、そこに住む人々自身で解決していく」という理念の元に、これからも活動していきます。

私は、現在 62 歳ですが、生きている限り 90 歳頃まで、このように活動をつづけて行きます。皆さんにお約束します。いつかは、道普請人はノーベル平和賞の受賞団体となります。ご清聴ありがとうございました。





四県対抗
クイズに参加して
「クイズ」

NHK松山放送局が制作する、平成二十五年一月十八日(金)に生放送された「四県対抗「しこクイズ」」へ出演。
この番組は、四国の各県から選ばれた高等学校一校が、様々なご当地問題や各校の特色に関する問題に対して、答えを競い合うクイズ番組で、今回は工業高校対決で、高知工業高校が選ばれた。



生徒会活動報告

六月三日には、筆山を守り育てる部会や工コ応援隊の方たちとともに筆山清掃活動に参加しました。
十月七日、再び工コ応援隊や同窓会、筆山を守り育てる部会、潮江小学校PTA、本校教員の方たちとともに清掃活動を行いました。

平成 25 年度 (2013.4~2014.3)

キ(機械科) テ(電気科) シ(情報技術科) カ(工業化学科)
ト(土木科) ケ(建築科) ソ(総合デザイン科)

六月十四日放課後、
カッ才人間襲来!



◎囲碁・将棋部
○第二十六回全国高等学校将棋電王戦
出場に向けて
中久保 大紳(ケー)



高知県
高等学校
体育大会



筆山清掃活動

生徒会活動報告



生徒会の校外の活動におきましては、
四月中に「未成年者飲酒防止街頭キャ
ンペーン」や「あしなが学生募金」に
参加しました。また、六月二十九日に
は「薬物乱用防止キャンペーン」に参
加しました。

おめでとう!
県展特選・奨励賞
ダブル受賞
第六十七回高知県展
先端美術の部で総合デ
ザイン科三年橋本雅さ
んが特選・奨励賞二冠
に輝きました。



十一月二十四日には
潮江小学校において、
潮江小学校区防災フェア
に参加し、小学生を対
象に丸太切り体験の指
導を行いました。

全国大会で偉業達成!



●ソフトボール部
第三十二回全国高等学校男子ソフト
ボール選抜大会
日本ソフトボール協会主催
全国高等学校体育連盟
平成二十六年三月二十二日~二十五日
開催場所 静岡県富士宮市

祝! 全国第三位



2013年度 文化祭



生徒会活動報告

筆山公園において、生徒会ばかりでなく、高知工業ECO応援隊、同窓会、筆山を守り育てる部会、本校教員とともに清掃活動を行いました。



「あしなが学生募金」に参加しました。



第十回
高校生ものづくりコンテスト
四国大会(木材加工部門)
平成二十六年六月二十二日
高知工業高校 会議室
第三位奨励賞
宮地 真祥(ケ3)

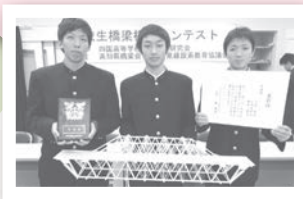
土木科実績報告

第十五回コンクリートカヌー
競技大会
近畿高校土木会主催
平成二十六年八月十九日
兵庫県立円山川公苑
競漕の部 第1位
上村 亮人 黒川 琢真
小松 拓末 都築 照太
松岡 諒 山崎 迅
山中 響 横田 周典
(以上ト3)

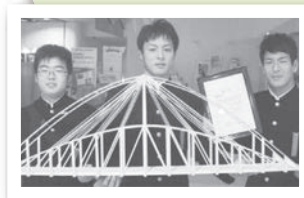
総合デザイン科

献血啓発イベント・デザインコンテスト
高知県健康政策部主催
平成二十六年八月二十八日
最優秀賞 山本 彩水(ソ3)
愛の芽吹き賞 上居 多恵(ソ2)

第八回高校生橋梁模型コンテスト
四国高等学校土木教育研究会主催
平成二十七年一月十日
高知県立高知工業高等学校会議室
準優勝
秋永 慎平(ト3)
川崎 裕太(ト3)
仁井田直也(ト3)



橋梁模型コンテスト
平成二十六年十一月十五日
「土木の学校」/神戸市建設局主催
神戸市垂水区橋の科学館
準優勝 土木科3年Bチーム
野田 直希(ト3)
前田 健斗(ト3)
依岡 恭平(ト3)



平成二十六年
第四十三回体育祭



平成 27 年度 (2015.4~2016.3)

一年生を対象に、室戸青少年自然の家にて、一泊二日(六月二十二日~二十三日)の宿泊研修を行ってきました。

インベーショナル 集団宿泊研修実施



○キャリア教育講演会について
七月十六日(木)に本校卒業生によるキャリア教育講演会が開催されました。講師は、マツダ株式会社開発担当主査の山本修弘氏で、「新型ロードスターの開発 ~人間、好きなのによって世界を切り拓いていく~」というテーマでご講演いただきました。

今回の文化祭は創立百三年目を迎え、「ようこそ工業フェスティバル」をテーマとしました。

二〇一五年度文化祭



祝!

平成27年度
男子第六十六回
全国高等学校
駅伝競走大会出場

生徒会一学期
の
活動報告

四月十二日には、未成年者飲酒防止
キャンペーンを行いました。
六月二十五日には、小雨の降る中、
帯屋町で他校の生徒とともに「薬物乱
用防止キャンペーン」に参加しまし
た。



第六十九回県体



●弓道部

第六十回安芸市体育祭 弓道
安芸市・安芸市体育会主催
平成二十八年八月二十八日
安芸市武道館弓道場

団体・近的競技 第一位

高知工業B

里見 佳樹(キ3) 岡田 一希(ソ3)

神岡 勇成(ケ3)

(団体二連覇)



個人総合・近的競技 第一位
神岡 勇成(ケ3)
高校男子個人・近的競技 第一位
神岡 勇成(ケ3)



○「第二十八回

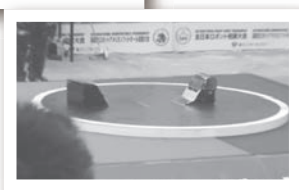
日本ロボット相撲大会に参加

情報技術部

光森 央玖斗(シ2)

森田 旭登(シ2)

山中 晃誠(シ1)



体育祭点描



熱中・夢中...



平成 29 年度 (2017.4~2018.3)



十一月三日と四日、『工業ホームセンター』
あなたの暮らしにアクセントを』のテーマの
もと、盛大に開催されました。

平成二十九年度文化祭



ソフトボール部からU-19日本代表選出

「第十二回世界男子ジュニア選手権」の選考会
が開かれ、全国から集まった六十四選手より十七
名が選出されました。本校からは、二年機械科の
近森大起君と、現在、日本リーグで活躍している
下元誠也君（高知工業高校→日本エコシステム）
が選ばれました。



イノベーション
集団宿泊研修

『イノベーション』の柱の一つである、「TEAM研修でまとまる力UP!」を目指し、一年生を対象に室戸青少年自然の家にて、一泊二日(六月二十五日~二十六日)の宿泊研修を実施しました。



●自転車部

平成三十年度 全国高等学校総合体育大会自転車競技の部



●ボート部

平成三十年度 全国高等学校総合体育大会ボート競技大会



U19日本代表
近森君が世界第二位



第二十七回
まんが甲子園

決勝戦入賞作品

テーマ：永久機関

まんが王国・土佐推進協議会会長賞受賞

◆選手一覧

- 和田 優香(ソ3)
- 福岡ほか(ソ3)
- 大久保翼咲(ソ2)
- 池内 友麻(ソ1)
- 山本 茉幸(ソ1)



予選通過作品

テーマ：仮想〇〇



●総合デザイン科

第五十八回インテリア設計士資格検定
主催：一般社団法人日本インテリア

設計士協会

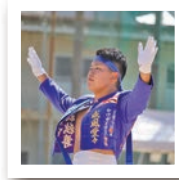
インテリア設計士

二級合格

- 衣斐彩都子(ソ3)
- 岡村ひかり(ソ3)
- 小倉 琉世(ソ3)
- 北川 留華(ソ3)
- 芝田 悠季(ソ3)
- 森 郁人(ソ3)
- 濱永 真桜(ソ3)



体育祭点描



生徒会活動報告

「高知龍馬マラソン」のボランティア活動にも参加し、沿道でランナーへ声援を送り、大会を盛り上げました。



令和元年度 (2019.4~2020.3)

キ(機械科) テ(電気科) シ(情報技術科) カ(工業化学科)
ト(土木科) ケ(建築科) ソ(総合デザイン科)

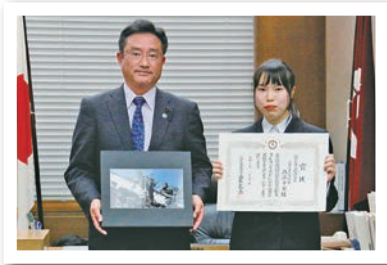
● 少林寺拳法部

令和元年度全国高等学校総合体育大会
少林寺拳法競技大会



● 写真部
本校生徒が高知県議会の高校生
フォトコンテストに入賞!

総合デザイン科三年の西添千晃さん
が出品した「いざっ!!」が高知県議会
高校生フォトコンテストの副議長賞
(一四六点の応募作品中第二位)に入
賞!



● ソフトボール部

第七回男子U17ソフトボールアジアカップ
本校から日本代表に三名が出場



アジア大会完全制覇

マレーシアで開催された大会で予選・決勝を全勝、
アジアの頂点に立ちました。

出場選手：U17 日本代表チーム

味元 琉維 (大正中学校 - 3年土木科) ※アジアMVP
片岡 久也 (池川中学校 - 2年機械科)
西森 潤 (仁淀中学校 - 2年土木科)

第十三回男子U18ソフトボールワールドカップ
本校から日本代表に三名が出場

金メダル (第1位)



ニュージーランドのパーマストンノースで開催された
大会で、二大会ぶり三度目の優勝を果たしました。

出場選手：U18 日本代表チーム

味元 琉維 (3年 土木科)
小椋 千寿 (2年 電気科)
西森 潤 (2年 土木科)

● 総合デザイン科

第三十四回 全国高等学校インテリア
デザイン展(デザイン甲子園)
主催：一般財団法人大川インテリア振
興センター
文部科学大臣賞
田中 優花(ソ3)



● 日本家具産業振興協会会長賞

中山つぐみ(ソ3)



● 生徒会活動報告

昨年度から行っている、「高知龍馬
マラソン」のボランティア活動にも参
加し、沿道でランナーへ声援を送り、
大会を盛り上げました。



● 建築科

第十五回高校生ものづくりコンテスト
四国大会木材加工部門
主催：四国工業教育研究会
日時：令和元年六月九日(日)
会場：徳島県立徳島科学技術高等学校
奨励賞 幾井 悠多(ケ2)

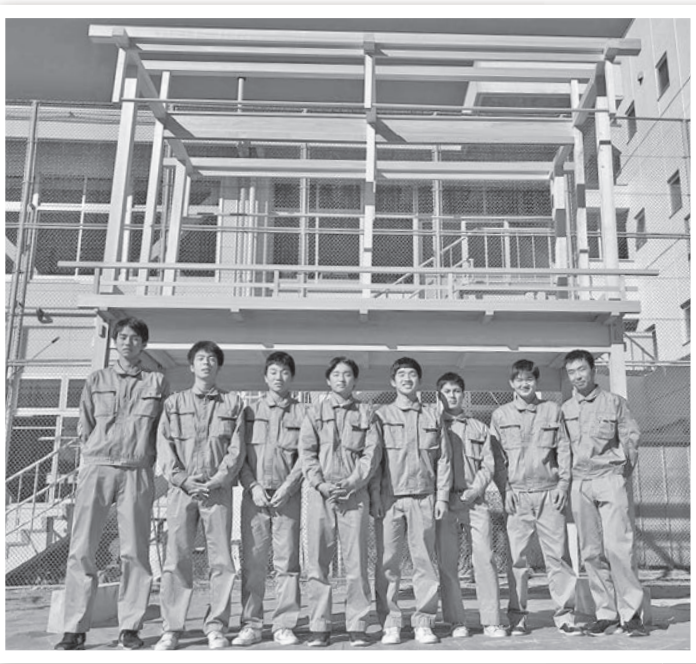




第十六回文教文化賞
主催：公益財団法人高知県文教協会
受賞日：令和二年九月十二日(土)
文教協会奨励賞
【建築よろず舎】
 中岡 秀斗 幾井 悠多 坂本幸四朗
 小松 慧刻 小原 善 津賀 優心
 長瀬 泰知 濱田 裕也 原 祈叶 (以上ケ3)
 白井 志(ケ2)



「分析力と開発力の成長を目指して」
 一年生では主に、「探究」(総合的な学習の時間)を使って、「分析力」や「開発力」の成長を目指して発表活動や集団活動を行いました。



●朝倉神社絵馬台の修復・改修の研究
 本研究は、二〇一九年に依頼を受け・調査を行った高知市朝倉にある朝倉神社の夏祭りに設置させる絵馬台の修復・改修に取り組んだものである。
 参加生徒(ケ3)
 井上 恭成
 北村 寛大
 桑尾 祥弥
 島中 八起
 瀧田 裕也
 福島 大智
 依岡 晃希
 渡辺 直人



令和 3 年度 (2021.4~2022.3)

キ(機械科) テ(電気科) シ(情報技術科) カ(工業化学科)
ト(土木科) ケ(建築科) ソ(総合デザイン科)

対面式



令和三度 主権者教育講演会について

本年度は、高知県選挙管理委員会が主催している「選挙出前授業」を、新型コロナウイルス感染症対策を講じて、各学年に分けて実施しました。



県 体



一年生発表活動「私のお気に入り」

「私のお気に入り」をテーマに自身を振り返って工夫を凝らしたポスターを制作し、仲間の前で発表活動を行いました。



演劇総見

東京劇団集団「風」による「Touch 孤独から愛へ」の公演を実施しました。



第四十五回全国高等学校総合文化祭和歌山大会紀の国わかやま総文二〇二一自然科学部門に参加
「植物色素とカラフルアルマイト」と題して化学部門の発表の部に参加しました。



ラグビー部

令和三年度高知県高等学校ラグビーフットボール秋季大会 十人制 第一位



祝 全国大会優勝

第二十一回高校生ものづくりコンテスト全国大会 測量部門
主催：公益社団法人全国工業高等学校長協会
日程：令和三年十一月十三・十四日
会場：神奈川県立向の岡(むかいのおか)工業高等学校
第一位
吉岡 千賀(ト2) 中川 心優(ト2)
山崎 明希(ト2)



思いやりライト大作戦!

十一月十日の「いい点灯の日」に実施致しました。



令和三年度 課題研究発表会

令和四年二月十八日



創立百周年記念植樹式

記念事業の一環として一月三十日に、筆山にて記念植樹式を挙行しました。



ホームマッチ形式によるスポーツ大会
ソフトボールの決勝トーナメントには、校長が始球式で登場。



『卒業の頃と母校あれこれ』



岡崎 洋一郎 (S32年 機械科卒)
シュウハウス工業(株)取締役会長

S14年2月3日芸西村生まれ。S32年に(株)ミロク工作所に入社。趣味は狩猟、射撃。国体にクレー射撃選手や監督で通算17回出場。H7年高知市議会議員選挙に初当選、連続4期務め議長を最後にH23年5月勇退。(公財)県スポーツ協会副会長等令和4年6月迄務めた。著書編著に『高知県機械工業史』『鉄砲造り百年』歌集『市政のはざままで』県ライフル協会50年史『県ラの弾道』等。

(1) 創立110周年を迎えて

令和4年4月29日(2022年)母校の高知県立高知工業高等学校が創立110周年を迎えた。県立県民体育館(元高知商業高校の跡地、電車路線を挟んで母校の向い側に在った)にて記念式典が開催され、同窓会と協賛広告会社のご案内を受けて嬉しく参加した。厳粛に進む式典の中、在校生一同の整然と列席した制服姿を眺めながら、自身の卒業当時を思い出していた。式典に続いて、記念講演と山田太鼓の華が添えられた。右城猛氏(同窓会会長)とのご縁からか、講師の木村亮氏(工学博士、京都大学大学院工業研究科教授)よりアフリカでの道路整備と改良を指導し、ローコストと在民協力のもと推進し実践している活動の紹介があり在校生達に「QPMIのクエッションから解決を導く基軸をもって将来を目指せよ」と熱く語った。木村氏の行動力を伴った自信哲学の講演は説得力と迫力があり、強く印象に残る講演であった。



母校の創立110周年を振り返ると、明治45年(1912年)創立。北与力町で工業高等学校開業。昭和23年(1948年)棧橋通2-11-6に移り県立高知工業高等学校となった。振り返れば、私達が卒業した昭和32年(1957年)は母校創立65周年にあたり、戦後日本の復興が基軸であり、神武景気(1954～1957年)なべ底景気(1957～1958年)岩戸景気(1958～1961年)この後に、イザナギ

景気(1965～1970年)の好況時代やオイルショックの時代もあった。当時を思い出すと私達は極めて恵まれた卒業時代で、日本経済上昇期の潮流に乗り、大手企業群から採用の手が差し伸べられ、卒業生達がそれぞれ基幹企業等で、企業発展に活躍できた時代背景は有難いことであったと思う。

(2) 在学時と卒業当時の状況

母校が歴史に残した足跡の中でも、私達の在学時から卒業の頃は特に充実し発展していった様に思う。小松生幹校長(六居の俳名で知られる)が、「マイルレースでランディーとバニスターの2人が記録の壁を破ったことは、新時代の幕開け」と語って下さった事が思い出される。在学中での、主任の塩田、久松両先生や浅野、田口、今井、島崎、宮地、貞広、道願、浜田の諸先生方のご指導が今でも懐かしい。母校の新時代で、私達が誇りとする三例を取り上げてみる。

※ 本校相撲部の素晴らしい活躍がある。



機械科同年（島崎正隆、西野俊夫）建築科早川君達が、土居先生のご指導で全国優勝を成し遂げる等、歴史にのこる黄金時代を築いた。活躍した相撲部の土俵場は、旧校舎と校舎をつなぐ渡り廊下の傍にあり、汗まみれの練習姿をよく見た。

※ 私達が入学時、全日制では初めて女子学生1名の入学があり、同32年に卒業した。翌年には女子学生2名が卒業し、母校は次第に共学の時代となった。

※ 旧校歌に加えて、作曲平井康三郎「筆山のみどりに映えて・・・」の新校歌が採用されたこと。

以上のような事を含めて、在学から卒業時の母校は、新しい充実した時代だったと思う。

私達機械科は、各30名の2クラス編成で計60名の学校生活。卒業後は社会人としてそれぞれの道歩んでいる。そして歳月は流れ平成31年3月18日、県内外の仲間14名が、ホテル日航高知旭ロイヤルで60年ぶりの嬉しい再会が出来た。翌日母校を訪問、横畑校長との面談も叶ったことであった。

今回、母校の創立110周年の式典に参加出来た私も83歳となった。機械科仲間達の近況がわかっている数も20名程となり、寂しさはいなめない。去年には2名の他界もあり、クラスメイトの多くが人生の卒業生である。

（3）安芸線通学の頃

安芸郡芸西村西分生れの私は、高知工業高校への通学は、土電の安芸線西分駅から後免まで、後免から市内電車ではりまや橋経由棧橋通り2丁目の学校まで、片道1時間余りの時間を要した。高知市内や下宿生は別として、国鉄を利用し大豊から高知駅へ、西は須崎から高知駅へ、又郊外からのバス通学も多かった様に思う。芸西中学から工業高校機械科へ私と岩本宏君、他合わせて5名が入学し卒業している。

私にとって通学時間は有難く、車内での往復を読書で楽しむことが出来た。通学当時を振り返ると、安芸線の電車内で母校の先生とよく顔を合わせた。赤野駅から化学科の小松一夫先生、月見山駅からは、立仙啓一先生が通われていた。詩人であり特に酒好きの立仙先生と、帰りの終電車で同乗した時など、詩をつぶやく酔芸に出会い、大変面白かった事が今でも鮮やかに思い出される。

（4）港六社と母校、そして芸西村の縁

私達が高校卒業前後の時代は、港六社と呼ばれた有力企業が、浦戸湾の利便上から棧橋通り電車終点地の周辺に立地して居り、煙突から昇る煙は復興のシンボルの様な存在でもあった。

①日本セメント②東洋電化 ③宇治電化学 ④南海化学 ⑤神戸製鋼 ⑥東京製鉄があり、港六社の中で、昭和59年と62年に⑤と⑥の両社が環境問題その他の状況から撤退した。この企業群は、私達母校にとっては化学、鋳工業の習学技術とのかかわりがあり、卒業生の就職先としてもお世話になったと思う。



港六社の中でも、母校と関わりが深かった会社は③宇治電化学で、芸西村出身の大元政一郎氏（T9年電卒）は、工業高校教諭を務めた後、大阪の宇治川電機での要職を経て帰高。西山亀七氏等と現在の宇治電化学工業㈱の設立に尽力した。



川久保友一氏（T15年電卒）香南市出身だが、大元氏に追随し③の発展に貢献。母校同窓会会長2代目を務めた。

又、芸西村出身の都築暹氏（関西学院大）がいる⑤神戸製鋼所本社の経営者と大学が同期、相撲部で活躍した。親交が縁で同社関係の要職を務め、高知工場立地の尽力や神鋼電気等の社業発展に尽力された。②東洋電化の清遠幸男氏（京都大学卒）は、芸西村出身で、私が卒業後にもご指導を頂いた方である。



港六社とは無関係であるが、芸西村出身の小野川秀太郎氏（東洋大学卒）は、工業高校教諭で国漢、文学、修身を担当、剣道4段。昭和20年陸軍少尉の秀太郎氏（33歳）の若き戦死が惜しまれる。

(5) 卒業し地場企業ミロクに就職

昭和32年卒の私達機械科60名は、拡充期の県外企業の求人にも応え、社会人としてのスタートを切った。私も6人の仲間と東京企業入社を考えていたが、諸事情により県内就職となった。当時は、協和や鈴江の農機製造、造船、港湾建機企業等が活況であった。私は捕鯨砲と猟銃を製造する従業員70名程のミロク工作所に就職した。この企業には、母校の2年先輩の井戸豊晃(S29年機卒・創業者のご子息、後に社長も務めた)伊藤智章(S29年機卒捕鯨砲や銃器設計)の両氏が活躍されていた。私の入社2年後に山本忠志君(S34年機卒)3年後には和田宣郎君(S35年機卒)等に続き後輩達が入社した。

又、母校の久松勉先生も退職後に役員をされている。その後、社名がミロク製作所となり社業発展と共にアメリカのブローニング社や、ベルギーのFN社と連携が進み、私も関連企業のミロク機械(株)製造部長を最後に定年までお世話になった。

定年後も趣味だったクレー射撃競技や狩猟も続け60余年のライフワークを楽しんだ。

昭和63年(1988年)の高知工業高校75周年誌の賛助広告に協力し、卒業生名簿を載せた。ミロク製作所、ミロク機械等関連企業には、私達56名の卒業生の名を掲載出来て嬉しく思った。発展するミロクが、製銃技術を高める上で特殊な専用機の必要から設備投資と共に、県内で銃身の穴を加工する



するガンドリルマシンの製造を、山崎技研の山崎圭次社長にご協力頂いた。当時、内燃機の製造等で企業を発展させていた山崎圭次社長は、母校高知工業高校で教鞭を取られていた方でもある。その後、昭和46年に起

こした<高知生コン事件>は驚きの行動で話題となった。年月は流れ山崎圭次氏の指導や薫陶を受けた奥田幹雄(S34年機卒)大和正幸(S34年機卒)中島豊明(S34年機卒)等に私も加わり母校卒業生や関係企業のメンバーの呼びかけで、平成22年(2010年)、桂浜坂本龍馬記念館(新館)の玄関近くに<浦戸湾の碑>を建立した。振り返ると、このご縁も不思議な絆を感じるのである。

(6) 母校卒業生のアーティスト達

10年前、母校の創立100周年記念誌の編集に、高知市議を務めたこともあり、母校卒業生で政治活動をされた人達の群像を執筆紹介させて頂いたが、今回アーティスト関係にもふれてみたい。

◇絵画関係

真垣武勝氏(T10年化卒1921年)

小松益喜氏(T12年電卒1923年)

上記二人は油絵画家で有名である。

画家の奥谷博氏は母校のOBではないが工芸科の美術を指導された。



渡辺満稔(一八大)氏

絵画、彫刻、彫塑家として知名度高く、母校にて教鞭をとり、後輩を育てすそ野を広げた方である。



武内光仁氏(S41年化卒1966年)渡辺先生のご指導が励みとなり、油絵で活躍。前衛土佐派と呼ばれ、個性あふれる作品を数多く出展し、心象作家協会その他受賞等で大きな足跡を残す。現在、故郷の南国市白木谷に、現代白木谷美術館を開設し気をはいている。

◇工芸・彫塑関係

大野良一氏(S43年芸卒1968年)

渡辺満稔先生の指導に大きく影響を受けたと思われる。

銅像や工芸作品で活躍。坂本龍馬のシェイクハンド像や最近では図書館オーテピア玄関に寺田寅彦像を建立。銅像以外では、寺田寅彦の科学眼に触発されてか迫力ある作品で知られる。



西本忠男氏(S29年芸卒1954年)(故)油絵を主とし県展などで活躍。後半には彫塑の作品を多く手掛けた。彼と私は山岳会で親交があったが、惜しくも他界された。



池内卓也氏（S53年土卒1978年）香南市で鉄工所を経営しながら出展等で活躍。素材の鉄の加工や、溶接の技術を生かして工芸を手掛けている。

川崎太一氏は工芸科で教鞭をとりご指導下さった方である。

◇写真



野町和嘉氏（S40年機卒1965年）写真家として国内外での知名度が高く、世界各地の民族や秘境風景等の写真集を数多く出版しており、その活躍ぶりは母校の誇りである。

松村一位氏（S16年土卒1941年）
島総一郎氏（S27年建卒1952年）
お二人は地元で活躍の写真家である。

◇詩歌・文芸

母校で教鞭を執られていた立仙啓一先生は、詩人で知られている事を前記でふれた。



嶋岡 農氏（S25年建卒1950年）母校OBの第1人者として詩や文学界で巾広く知られ、文芸誌など数多く出版し活躍されている。

その他下記の方達の活躍がある。

清水峯夫氏（S24年建卒1949年）
野村土佐夫氏（S26年電卒1951年）
林 嗣夫氏（S29年電卒1954年）
片岡文雄氏（S40年化卒1965年）
長尾 軫氏（S40年化卒1965年）
佐藤寿良氏（S40年土卒1965年）は、芸西出身。県職にあったが、龍馬と芸西と海援隊士を研究。労作3冊出版の功績は大きい。

以上ジャンル別に、荒削りながらご紹介させて頂いた。行き届かず欠落の方にはお許し願ひ、母校OB現役の文筆に期待したい。

余談ながら、私の在学当時の辻至誠先生や村山保先生が高知歌人詩に出詠されていた。

私も高知歌人や温石誌の同人として、40年余り短歌に親しんでいる。又同級の松田英孝君（S32年機卒在京）も、ひろむ名で俳誌〈鷗座〉を主宰し、活躍している。

（7）終稿にあたり

政治家に少しふれてみる。

大村之彦氏（S26年応卒1951年）故

川添義明氏（S30年土卒1955年）故
両氏は最近他界された。

武内則男氏（S52年土卒1977年）

国政で1期6年活躍後に惜敗。

再チャレンジを期して居られる様だ。



依光美代子氏（S30年化卒1955年）は香美市市長選に県議が挑戦することとなり、県議補選に連動、香美市議を退き出馬。令和4年4月当選。女性県議として活躍が期待される。

現在高知県に、高知工業高等専門学校や高知工科大学が開校している。

時代変化の中で、母校は建学精神の年輪を重ねており、確かな歩みで更に充実発展することを願っている。

創立110周年誌発行に、私の学生時代を振り返っての拙文を掲載していただき、心より感謝申し上げます。

『学びに感謝』



武内 則男 (土木科 昭和52年卒業)

◇はじめに

多くの卒業生(同窓会会員)が、様々な思いと目標を胸に抱いて高知工業に入学、卒業し活躍されている中、寄稿の機会をいただいたことに感謝申し上げます。

◇入学をめざして

私の故郷(幡多郡三原村)は、360度山に囲まれた盆地で、中村(現四万十市)に出るにも、宿毛・土佐清水に出るにも道路は狭く、カーブも多く、ガードレールも満足に設置されておらず、転落事故も発生するなど危険が伴う道路状況でした。実は、母も転落事故を起こしましたが、落下中に窓ガラスが割れたことで無事に脱出することができ、大事に至りませんでした。

当時、漠然とではありますが、兄が宿毛工業土木科に在学していた影響もあり、トンネルを掘ったり、橋をかけて、道路をつくりたいと考えるようになり、受験前の三者面談で、担任の先生(川村先生)からプッシュしていただき、高知工業土木科を受験することとなり、1974(昭和49年)4月、高知工業の門をくぐりました。

◇3年間の学び

無事に入学式を終えて、本格的に学びと暮らしがスタートしました。

土佐弁や初めての下宿生活に戸惑いながら、ほぼ1年間は学校と下宿を往復するだけの生活でしたが、徐々に友人も増えて学業に励みました。

測量実習やテストピース作成しての圧縮試験、水理や力学など基礎知識の取得に四苦八苦ながらも新鮮で仲間との共同作業は大変楽しかったです。

クラブ活動を巡っては、中学時代に腰を痛めたこともあり、スポーツクラブは断念して応援団に入部しました。

当時の団長は、浜田孝男先輩(昭和50年4月土木科卒業・現いの町議会議員・元いの町職員写真②)で、三年生はとにかく怖かった(優しく)です。(笑)



写真②

私はというと二年・三年と副団長となり、活動を楽しみ中、山本三四年団長(昭和52年4月土木科卒業・現高知市上下水道事業管理者・写真③)の発案で、後輩に何かを残そうということになり、団旗をつくることになりました(上がらずの団旗ではありません(笑))



写真③

ご支援いただいた学校関係者、当時の在学生の方々に感謝申し上げます。(写真④)



写真④

また、当時は西日本一の大きさを誇り、あげるのに大変苦勞し、少林寺拳法部に力を借りて二本の支柱を駆使して高知市営球場で野球部の応援をしたことは忘れることができません。

3年間の学習が試される試練に挑戦。

◇高知市役所で社会人をスタート

最初の配属は、経済部耕地課。1976年の台風17号によって高知市は甚大な被害を受け、災害復旧に向けて多忙な状況にあった。



写真⑤

日中は測量、夜は設計をこなし発注から現場監督、竣工検査といった仕事を繰り返し多忙な日々を送る中ではありましたが、先輩方（技友会）のご配慮により設計の基礎となる赤本（農水省）、黄本（建設省）を教科に学習する研修に参加（7日間のかんづめ）するために東京都小平市にある建設大学校（当時）に行かせていただくなど、技術職員としてのスキルアップのために派遣していただいたことに感謝です。

月日が流れ、1983年4月、市民の「命の水」を守り、「安全・安心・安定」供給という使命を担う高知市水道局配水課に異動。

新たな技術に携わる中、1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災は、まだ皆様の記憶に残っていることと思います。

発生から、すぐさま情報収集に入り、二日後には神戸市民に命の水を届けるべく応急給水隊を派遣致しました。派遣は数カ月に及び、私も3度神戸入りし復興に携わり（実はその経験が後の東日本大震災への対応に役立つ）ました。

給水箇所は、病院・避難所・住宅エリアなど多方面にわたりました。小雪がちらつく寒い中、ボウルや洗面器を持って並ぶ市民の姿は今も目に焼き付いています。「これで薬が飲める。ありがとうございます」といった言葉や医療関係者からの感謝の言葉を聞き、改めて市民の命の水を守り届ける、今の仕事に誇りと重い責任を背負っていることを痛感致しました。（写真⑥）



写真⑥

*高齢の女性がポリタンクを持って給水に訪れ、マンションの8階まで階段で届けたときは、さすがにきつかったです（笑）

また、復興の過程において、多くのボランティアが被災地支援に訪れ、後のNPO法の成立へと繋がりに今に至っています。

2002年8月、25年と5カ月務めた高知市役所を退職。

◇退路を断って政治の道へ

公務員は、民間企業のように在籍したまま選挙に出ることはできません（地方公務員法）したがって退職して出馬するしかないというリスクはありましたが、道路の改良、区画整理事業を軸とした街づくり、命の水を守るための法整備など政治の世界でしか解決できないことを経験し、高知市議会議員選挙に挑戦し当選させていただき、政治活動がスタート致しました（2003年4月）

先輩との出会い（岡崎洋一郎高知市議会議員・昭和32年機械科卒業・写真⑦当時）は、新米の私にとって、的確なご指導をいただくなど支えとなったことは言うまでもなく感謝しかありません。



写真⑦

技術屋としての経験を基に高知市の事業の前進にかかわると同時に、全く違う福祉分野でお母さん方と必死に取り組み重度心身障碍児者のB型通園事業を当時の国立高知病院において実施にこぎつけたことは、政治の世界に身を置いて良かったと感じた出来事でした。

一期4年で国政に挑戦。

◇2007年7月に実施された参議院通常選挙高知選挙区において、166,000票余りをいただき国政の場に送っていただきました。

2009年、ミッシングリンク（高速道路の空白地帯）の解消に向け、議連を立ち上げ、事務局長に就任し政府与党内をまとめ、2010年これまで凍結されていた高速道路の新規事業化（芸西～安芸西道路）にこぎつけました。

これも、土木技術者としての経験が買われての抜擢であり、高知工業での学びと高知市役所での経験があったからこそです。

年が明けた2011年3月11日14:46分、三県（宮城・岩手・福島）を中心に東北地方を襲った大震災は、国民に深い悲しみと衝撃をもたらしました。

震災対応に追われる中、国対に届け出をしたうえで自ら運転し、4月5日物資の輸送や、人の移動に重要な役割を担う東北自動車道を走り仮復旧の状況を見ながら岩手県を訪問。12日から14日にかけて、宮城県仙台市、塩釜、女川、石巻、福島県いわき平市などを視察し、写真を撮り、自治体の要望を聞き、この目で現場を見てきました。

活動中に、国対から予算委員会で質問に立つようにと電話が入り、震災から39日目の4月18日、参議院予算委員会においてテレビ入り集中審議が開催されました。

被災地の議員でもない私に対し、技術職の経験と、視察で得た貴重な現場の状況を基に、論戦に挑むようご指示いただきました。

政府に対し強力に要請した一つは、震災の経験を基に、「命の道」八の字ルート of 早期整備促進（後に「安芸道路・窪川佐賀道路」の事業化につながる。）

もう一つは、住民の生死にかかわる「命の水」を送る送水管、配水管の耐震化に対する政府の支援拡充（後に全国の水道事業者による耐震化が進む）など、東日本大震災の教訓を基にインフラ整備が進められ現在に至っています。

2012年からの一年間は、厚生労働委員長を務めました。

2013年に落選～2017年衆議院議員に

◇2017年10月に実施された衆議院議員選挙において、立憲民主党四国比例候補として立候補し、再び国政の場に送っていただきました。

2018年、水道法の改正案が通常国会に出されました。

条文の多くは、持続可能な水道事業にしていくために、国・都道府県・自治体の役割を明確にして、事業を進めていくものであり、その方向性は正しいものでした。しかし、命の水を守るために受け入れることのできない条文（コンセッション方式の導入）が入っていたことで、修正・廃案に全力で動きました。

何故なら、コンセッション方式は自治体水道が

保有する運営権を、外資を含む民間企業に売ることができるものであり、公営企業（自治体水道）が本来果たすべき住民の命を守るために安全・安心・安定的に水を届けるという役割と責任を放棄するものだからです。（ヨーロッパでは、料金が何倍にも上がり、水質は悪化し、パリをはじめ多くの自治体で再公営化が進んでいます）

衆議院本会議において反対討論に立ちましたが、与党の賛成多数で可決されました。引き続き、あきらめず全国の自治体が、市民・県民・国民の共有財産である命の水を守っていけるよう頑張っまいます。（写真⑧）

◇むすびに

卒業から45年、土木職としての社会人生活。高速道路の事業化、横瀬川ダム・和食ダムなどの事業化、南海トラフ地震対策の推進など、政治の世界で奮闘することができたのも、高知工業高等学校での3年間の学びのおかげです。

『工業ハ富国ノ基』ありがとうございます。

そして、母校の関係者すべての皆様に感謝申し上げます。



写真⑧

『高知工業高等学校を卒業して31年』



西原 功起 (建築科 平成3年卒業)

1, はじめに

私は高知工業高校建築科を卒業し今年で31年、早や50歳になろうとしております。現在は四万十市古津賀にて「サイバラ建設株式会社」の代表取締役社長を務めております。

弊社は、私の父が1960年(昭和35年)に旧中村市新町にてサッシ・シャッター・ガラス工事事業を開業し、のちに時代とともに変化する顧客ニーズに対応すべく建築鉄骨工事、建築一式工事、土木一式工事と変化してきました。

2020年(令和2年)にはおかげさまで創業60周年を迎えることができました。

この度は母校の創立110周年記念誌への執筆依

頼を受け、大変恐縮ですが私の半生をご紹介させていただきます。

2, 高校入学の動機

4人兄弟の上から3番目の二男の私は、なぜか幼少の頃から父に「跡継ぎは功起」と言われ続け「将来はこの会社を継がないといけない」と漠然と思っていました。

物心が付いて「会社を継ぐ」と決断したときに何をすべきか考えました。中学卒業後は親元を離れ早く自立すること。工業高校の中でも県内トップレベルの高知工業で建築を学びたい、と思い入学を強く希望しました。





当時は郡部から高知市内の高校を受験するには人数制限があり狭き門でした。中学の先生からは合格ラインぎりぎりの私に別の進路を進められました。自分の将来を決断していた私は猛勉強の結果、無事に合格し入学することができました。

3, あっという間の高校生活

入学準備をしているとき自分で決めた道とはいえ「これから親元をはなれ下宿生活は大丈夫か」「仲のいい友達はあるだろうか」「幡多弁と土佐弁の違いで言葉は通じるだろうか」などと、高校生活の期待より不安がどんどん大きくなっていきました。

しかし、心配していた不安は入学後すぐに解消されました。それは新しい環境での忙しい毎日と学校の先生や仲間との素晴らしい出会いがあったからです。

下宿先の大家さんは親切で、先輩や同級生とともに助け合い、とてもお世話になりました。学校では3年間クラス替えもなく一緒に過ごした建築科の同級生。2年に一度の体育祭では、応援練習に励み息の合ったパフォーマンスができたことは、クラスの絆がより強くなりました。また同じ目標に向かって汗を流した工業剣道部のメンバーや他校の剣道部の仲間。剣道部では毎日朝練から授業終わりの稽古や春・夏にはとても厳しい県内合同合宿、県外遠征。試合成績は良い結果は出せませ



んでしたが間違いなく心身が鍛えられたと思っています。

とても楽しく充実した毎日で「高知工業に入学してよかったなあ」としみじみ感じたことを思い出します。

4, 卒業後の進路

当時は、景気も良く学校に県内外の大手建設会社から多数求人が来ていたので就職を考えていましたが、両親の勧めもあり近畿大学工学部建築学科に進学しました。

大学ではより専門的な建築を学びました。例えば材料力学、都市計画、環境工学等。特に具体的に建築物のプランニングから意匠設計、施工計画を学んだことが現在の仕事につながっています。また教職課程を受講し、大学4年生時に高校の同級生と約束した母校での教育実習を実現でき、当時お世話になった先生の指導の下、実習できたことは非常に貴重な体験でした。

大学では勉強だけでなく高校より続けてきた体育会剣道部に在籍し稽古に励みました。大学の部活動は高校と違い、稽古、合宿、試合の運営などすべて学生が行うので色々な経験ができました。この経験は現在の会社運営につながっているように思います。

また大学で知り合った同級生、先輩や後輩は私にとって高校生時代と同様に大きな財産となりました。今でも連絡を取り合いお互いの情報交換や意見交換、時には仕事のお付き合いをさせてもらっています。

5, 社会人として

大学卒業後は全国規模の中堅ゼネコンに就職しました。東京か大阪での勤務を希望したのですが、会社からきた通知には「北海道支店の勤務を命ずる。」とあり大変驚きました。

ここからの4年間は私の人生にとって「建築施工管理技術者」としての基本と人間的に最も鍛えられた厳しい時期、環境でした。まず学生から社会人になって状況が一変したこと。次に職場が異常に忙しかったこと。何より温暖な高知と違いとにかく寒い。冬の北海道の生活は厳しく朝起きて出勤前に除雪、現場について除雪、宿舎に帰って除雪。最高気温もマイナス気温が続きます。

一番初めの現場は郊外型のショッピングセンターでした。現場監督見習いとして何をしていいのかもわからず、朝は早くから現場に向かい夜は11時過ぎに宿舎に戻り、フジテレビの「プロ野球ニュース」を見ながらビールと晩御飯。布団に入ったと思ったら朝。そして、今さっき脱いだばかりの作業服を着て現場への毎日。

高校、大学時代ではなかった「ホームシック」

を社会人一年目で感じるようになりました。気持ちが弱くなると、これまでの厳しい剣道の稽古を思い出して「負けてたまるか!」と自分自身に気合いを入れました。

初めての現場を何とか気力で乗り越え、無事竣工を迎えた時は感無量でした。途中でやめることなく最初から最後まで現場に関わったことが、自信となり今後の現場監督業務での基礎となりました。

それからは北海道支店を拠点に、ダンボール2箱と作業服とともに転勤し、関西支店、東京本社の勤務を経て、最後は北海道支店にて退社することになりました。この間に携わった建築物は商業店舗、特別養護老人施設、住宅、マンション等と色々な思い出があります。

6, 地元に戻りそして今

26歳で地元中村に戻りサイバラ建設(株)に入社しました。36歳で代表取締役社長に就任し13年になります。この間はサラリーマンから経営層へ立場が変わったことでたくさんの試練がありましたが、社員や協力業者の皆さんに支えられ今日に至っております。

弊社のモットー「生き甲斐のある社会づくりにChallenge」のように家庭、会社、地域、そして社会が幸せで豊かになるように少しでも貢献できる人間でありたいと思います。

先日、久しぶりに建築科同級生が集まり同窓会を開きました。みんなそれぞれの分野、立場で活躍しており、見た目がかなり変わった友人もいましたが中身は全く高校時代と変わらず楽しい時間を過ごすことができました。今でも仲良くお付き合いしてくれる同級生に感謝の気持ちでいっぱいです。

幼少のころや中学卒業時に、現在の50歳の自分自身を想像はしていませんでしたが、今の私を作った環境は高校生活での3年間がとても影響しています。あらためて、中学卒業時に親元を離れ高知工業高等学校に進学できて良かったと思います。と同時に歴史ある高知工業高等学校卒業生として誇りに感じております。

結びに高知工業高等学校の益々のご発展をご祈念申し上げ、110周年記念誌の寄稿とさせていただきます。

ありがとうございました。

『100周年から10年』



寺川 湖砂 (情報技術科 平成6年卒業)

110周年おめでとうございます。
心よりお祝い申し上げます。

普段より同窓会で青年部長として活動しているため、役員会や理事会など母校に出向くことがあります。

ここ数年いつ出向いても、とても気持ちのいい挨拶の声がとんできます。

こちらもちろん挨拶を返します。

つい最近、生徒会取り組みをきく機会があり、その中の話で挨拶運動に取り組んでいるということでした。

生徒会の取り組みも、素晴らしいと思いましたが、実践してくれる生徒の皆さんも素晴らしいと思います。

私が、はじめて、同窓会に参加したのが創立100周年の2年前。

100周年準備期間になりますが、その時、教頭先生をされていたのが、学生時代(情報技術科)の恩師である松岡博先生だったためか、自宅に「学校まで連絡してほしいです。」と連絡があったので折り返すと「話がある学校まで出てきてください」といわれ...

そこからは、もちろん100周年準備のお手伝いです。

その時はなにもわからず、先輩(ずいぶん年上)について、協賛募金・協賛広告を集めました。あまり役にもたってなかったと思います。

この時の100周年記念誌にも、なぜか寄稿と言われ拙い文章が残っています。



筆山除草作業

100周年事業も無事に終え、仕事も終わりが
と思えば、当時の同窓会事務局長が、また情報技
術科でお世話になった澤 俊雄先生でしたので同
窓会の理事に入れといわれ（笑）

あれから10年。

10年といえば長いですが、あっという間の
10年だったように思います。

大きな行事としてはありませんでしたが、
2015年に青年部設置がきまったため青年部副
部長となり活動していくこととなりました。

2017年1月には筆山にて青年部設置記念植
樹式典を行いました。筆山は校歌にも謳われてお
り創立100周年の記念植樹もしています。

この年から青年部の活動が本格的にはじまりま
した。

活動としては4月に行われる同窓会総会及び懇
親会の司会進行9月、就職希望生徒への模擬面接
（学校と協力し行います。）

1月、筆山の除草作業（記念植樹周辺を生徒と
共に除草清掃します。

この3本柱を主な活動として毎年おこなってい
ます。

昨年、一昨年はコロナ渦ということもあり学校
行事や同窓会事業も中止や延期が多くをしまし
た。

今年行われた110周年記念式典もどうなるこ
とかと心配しておりましたが、無事開催するこ
とができ、大変嬉しく思っております。

100周年時と110周年時で、同窓会理事、
役員も入れ替わりがありました。

青年部も概ね50歳までという規定があります
ので、私も、あと2年の間に後輩に役を譲り、4
年間で引き継ぎをと思っております。

同窓会と聞くと敷居がたかく感じるかもしれま
せんが、異業種の方、先輩後輩と活動していると
多くの気づきがあり、個々の成長にも繋がると思
います。

軽い気持ちで青年部に参加してみませんか？



青年部記念植樹の桜

『どう生きて どう活かすか』



浅利 友美 (総合デザイン科 1期生)

日本と海外を行き来しながら、商業デザインやエンターテインメント事業を展開。

2014年～ デザイン事務所『ASARI CREATION.』設立。

2016年～ プノンペンへ進出。映像制作事業『S.A.H.Lab』設立。

2020年～ サウナカーの制作・販売ブランド『TOY101』設立。

●ごあいさつ

開校110周年おめでとうございます。

100周年のシンボルマークは、当時高校生の私がデザインし、採用していただいた思い出があります。それから更に10年の月日を経て、こうして寄稿させていただくことができ、卒業生として大変光栄です。

●高知工業という環境

私の父は若くして自分の店を持ち、母と共に理容業を営み続けています。全国の頂点へ挑み、腕を磨く父の姿に憧れた私は、同じように輝くトロフィーを欲しがる子どもに育ちました。ピアノ、書道、絵画、少林寺拳法など、幼少期より多種多様な芸の道に励みながら、経営者の道を漠然と描いていました。

職業学校とも言える高知工業は、そんな私にとって最高の学び舎でした。技能や実務を指導してくれる専門分野の先生は、社会に出てからの対応に極めて近い厳しさがありましたし、やると決めたことにはとことん付き合ってくれる頼もしさがありました。3年間を共にするクラスメイトとは切磋琢磨し、時には讃え合い、時には才に嫉妬する、そんな刺激の中で生まれる絆は、普通校とは違った良さがあるように感じます。

良い意味で“欲深い自分”に出会えることができた高校時代は、今でも大きな糧となっています。

●21歳で独立

計画より早まった独立でしたが、きっかけは母の急病でした。就職先も1年で辞職。家族のサポートをしながら自由に身動きが取れるフリーランスとして、デザイン事務所を設立しました。

年齢も実績もまだまだ若かった私に、会社の経営に関わるブランディングや、ブランドの顔となるトータルデザインを任せてくださったクライアントの心意気には、心から感謝しています。

唯一、私が仕事を受ける上で決めてあるルールは、クライアントと直接やり取りのできない下請けの案件は、基本的にお断りをしていることです。相手の歴史や思いを知り、その業種や仕事ぶりに触れ、その人から感じる空気感すべてを制作に生かさなければ、説得力のあるデザインとはならないからです。そして、相手の考えをただ素直に聞



▲青果市場のブランド『元気な畑のごちそう』トータルデザインの一部



▲文旦農家オリジナルブランド『おおきたばあちゃんの、おくりもの。』トータルデザインの一部

くだけでは唯一無二なものにはなりません。デザインによって、その企業にどう影響があるのか、その先の顧客や社会にどうアプローチしていくのか。心理的誘導とその効果までも未来形で計算してこそ、商業デザインのプロの仕事だと思っています。最終的なビジュアルは、数学でいうと最後の答えの部分であって、たった1割ほどの比重。あとの9割は、その答えを導くまでの計算式と言え、核の部分の企画力だと考えています。

今年で独立し9年が経ちます。クライアントと二人三脚で歩いていく案件とはまた別に、私の興味のある分野や、社会的にアプローチしていきたいテーマをコンテンツビジネスとして捉え、新しい自分だけのブランドを作っていくという新たな創作意欲を持っています。

自分がこの世を去るまでに、自分が生み出したものが広く世に遺っていくような仕事をしていきたいです。

●第2のホーム カンボジア

プノンペンへ進出した日本企業との出会いを機に、24歳で初めてカンボジアを訪れました。

世界遺産として有名な、首都から離れたシェムリアップの遺跡“アンコールワット”では、その壮大な歴史と未知なるパワーに感激したことです。ですが、何よりもカルチャーショックだったのは、首都プノンペンの輝かしい姿でした。ひしめく高層ビルや活気溢れる都会的な町並み、国の平均年齢が24歳という驚異的な数字、国際社会と渡り歩こうとする若者の勉学への意欲レベル、歴史的悲惨な過去を乗り越えたうえにある笑顔溢れる人々

の暮らし。“貧困・危険”といった日本のメディアイメージを覆す首都の姿に、一瞬で心を奪われたことを今でもはっきりと覚えています。

決して手を付けられない崇高な歴史的文化や暮らしを保ちながらも、ある意味では日本よりも都会的と言える一面を持ちつつ、産業としてまだ埋まっていない席が大いにあるという点。仕上がり切っていない、混沌とした違和感だらけのその姿は、アーティスティックであり、未来形の思考と創造性を掻き立てられる貴重な国だと感じました。

そのパワーに触発され、試行錯誤の末、プノンペンで映像制作の事業をスタート。アメリカ人やシンガポール人の制作スタッフで固め、ハリウッド映画の予告映像のようなテイストを強みに、企業CMやウエディングPVを手がけてきました。アンコールワットの遺跡の中で撮影できる観光プランでは、すべてのスタッフが現地人であるからこそその成功だったと思います。

他国に踏み入れ、商いをさせていただいているという謙虚な気持ちと、現地人同士にしか分からない感覚を尊重すること、その上で、自分たちの産業によって、その国が少しでも豊かになってほしいと願いながら共に暮らしていく大切さ。日本



▲スカイバーから見下ろしたプノンペンの夜景



▲世界遺産アンコールワットで撮影したウエディングフォト

と他国を通いながら仕事をする事で学び得たことです。これは、観光では感じ取れない貴重な経験。今も進行中のさまざまな企画を、面白い仲間たちと成功させ、カンボジアに新たなエンターテインメントを生み出していきたいと思っています。

●サウナカーブランド

COVID-19感染拡大により、世界的に大きく暮らしが一変し、私も日本で閉鎖的な暮らしを余儀なくされました。

無機質な毎日に飽きてきた頃、仲間と共に“サウナカーの製造・販売”の事業を立ち上げました。一変した暮らしから生まれた新たな価値観を逆手に取り、自然の中でプライベートサウナを楽しむことができる、楽々移動のサウナトラック。対企業とも取引ができるよう、DIYの域を遥かに越え、整備を担当する車屋・建築を担当する大工・意匠を担当するデザイナーの3本柱がタッグを組んだ、プロフェッショナルな製品を作り上げるブランドとなりました。



●子どもたちのために

“人と同じ”が居心地悪く、突飛な行動に制御のできない自分の性格は、組織や社会において生きづらさを感じる面もありますが、今こうした仕事に発展しているのは、そういった偏りがアシストした結果です。学生へ向けて授業をさせていただく機会では、人と違う部分にこそ光るものが隠れているのだと伝えます。空を、決められたかのように青く塗るにはまだ早いということです。なんでも簡単に情報が手に入った今の時代、経験した気になってしまうことも大人でさえあります。実際に自分自身で経験・体感したことではないと説得力は身に付かないこと。その説得力は大きな武器になることも伝えます。

日本は一見、平和かつ優秀に見えますが、子どもたちの環境と考えると、とてつもなく閉鎖的で量産的。いざ国際社会に環境を移すと、大人でさえ遅れを取っていることに気がついていないシーンが多々あると感じています。

社会や政治、置かれた環境に嘆くその時間。それを、子どもたちと向き合う時間に置き換え、目の前の環境下でどう生きて何を得るかの意識の種を蒔いていくことの方が、ずっと有意義なことに思えます。

面白い大人がたくさんいる高知工業卒業生の1人として、今後も型に捕われぬ自由なクリエイティブを生み出し、子どもたちに多くの選択肢を残してあげられたら幸せです。



▲木材タイプと鉄板タイプの2タイプ

『入学から現在まで』



保川 明香里 (土木科 平成 30 年卒業)

1) はじめに

創立110周年、誠におめでとうございます。伝統ある母校のさらなる発展を心よりお祈りいたします。

2) 高知工業入学のきっかけ

某テレビ番組を観たことをきっかけに、当時の私は、建築科に入学しようとしていた。中学校の先生には、学力的にやめておいた方がいいと言われていた。

しかし、高知工業に入りたい気持ちが強く、建築科入学を試みてみた。結果は、残念ながら第一希望であった建築科には落ちてしまったが、第二希望である土木科へ入学することができた。

3) いざ入学

土木科には女性が少ないと聞いていたので、やっといけるか不安だったのを覚えている。入学してみると、過去最多の4人(自分含め)もいたので安心した。

今では、土木科に入学できて本当に良かったと思っている。

4) 勉強とサッカーの両立

私は、高校3年間勉強とサッカーの両立に励んだ。小学校1年生から続けているサッカーですが、部活に入ったことはなく高校3年生までクラブチームでサッカーをしていた。

所属していたクラブチームでは、社会人も在籍しているため、練習の開始時間が午後7時からと遅かった。なので、練習までの間コンビニのイートインコーナーで勉強をするなど時間を有効活用し、勉強とサッカーの両立を心掛けていた。

いつもサッカーを優先していたので、友達と遊んだ記憶があまりない。もっと高校生活を謳歌したら良かったなど今になって後悔している。

5) 体育祭

高校2年生の時、最初で最後の体育祭があった。この年はV30がかかっていたので、「絶対負けられない」という気持ちで取り組んだ。

体育祭では、男女の比率の違いから女子生徒にはハンデがあった。200m走だと男子生徒のスタート地点より40m前からスタートできるといったようなハンデだ。スポーツが得意ということもあり、これなら余裕で勝てるなど意気込んでいた。200m走に出ていた私は案の定、余裕で1着になることができた。

一番思い出に残っているのは、応援合戦と科別対抗リレーだ。



写真 -1 応援合戦

科別対抗リレーでは、私は2年生の1走目を担当し、緊張しまくりだったが、抜かれることもなく気持ちよく走ることができ、1位でゴール。

途中、優勝できるか怪しかったが、科別対抗リレーの点も大きいこともあり、見事「V30」を達成できた。



写真 - 2 V-30

6) 最後の登校日

私は、卒業式で土木科全員の卒業証書を受け取る大役に選ばれた。その大役に抜擢されたのは、自分で言うのもなんですが、成績が良く、3年間皆勤であったからだ。笑

卒業式が近づいてきた頃、卒業式前の最後の登校日があった。私は、龍馬マラソンのお手伝いの疲れから、登校日を忘れ爆睡。そして遅刻した。これまで3年間皆勤だったのに1日遅刻したため皆勤賞を逃してしまったことを今でも後悔している。せっかく卒業証書受け取りに選んでもらった先生には、遅刻してしまって申し訳ない気持ちでいっぱいだった。

1年に1人は登校日を忘れる生徒がいるそうだ。残念なことに自分になってしまった。

7) 卒業後

卒業後は、株式会社建設マネジメント四国に入社した。入社当初は積算支援業務に配属され、現在は工事監督支援業務に従事している。分からないことも多く、自分で調べたり、上司に確認したりと日々奮闘している。

当社では、女性社員も増え、平成31年度から女性社員で構成された『建マネ小町』という活動をしている。女性ならではの考えや、女性が働きやすい職場環境になるような話し合い、現場見学や講習会に参加するなど、スキルアップを目指すなどいろいろな活動している。



写真 - 3 国道工事の現場打合わせ

また、高知工業卒業生として、毎年開催されている進路ガイダンスに参加するなど、就職するとき・就職してから思ったことなど、在校生に経験談等を伝えている。

そして、卒業後はサッカーを辞め、先輩に誘われフットサルを始めた。今年、高知県で開催された『第13回トリムカップ全国女子選抜大会』では、初めて予選リーグを突破し3位になることが出来た。



写真 - 4 技士会「土木女子」の港湾工事見学会参加



写真 - 5 トリムカップ第3位

創立110周年記念事業実行委員会

実行委員長	右城 猛	昭和45年	土木科卒業	同窓会会長
副委員長	北村 晋助			学校長
	吉良 勉	昭和45年	土木科卒業	同窓会副会長
実行委員	宮崎 功司	昭和59年	土木科卒業	同窓会副会長
	北川 雅規	昭和60年	機械科卒業	同窓会副会長
	久保田 明	昭和52年	土木科卒業	同窓会協賛広告副委員長
	大谷 学志	昭和55年	電気科卒業	同窓会副会長
	寺川 湖砂	平成 6年	情報技術科卒業	同窓会青年部長
	前島 正二			前副校長
	山岡 晶			副校長
	藤原 章弘			前教頭
	大原 義規	昭和61年	情報技術科卒業	教頭
	上村 正博	平成 7年	建築科卒業	教諭
	佐々木 康宏	平成13年	建築科卒業	教諭
監 査	岡田 雅吉	昭和59年	土木科卒業	同窓会監事
	和田 環	昭和59年	電気科卒業	同窓会監事
事務局長	中野 邦彦	昭和47年	工業化学科卒業	同窓会事務局長
会 計	矢野 元朗	昭和46年	電気科卒業	同窓会会計

発 行 令和4年9月吉日

編 集 総合デザイン科3年 上田日菜多・西尾優津季

創立110周年記念誌発行委員会

発行者 高知県立高知工業高等学校創立110周年記念事業実行委員会 右城 猛

〒781-8010 高知県高知市棧橋通2丁目11-6

TEL 088-831-4133

印刷所 有限会社三宮印刷

〒781-8008 高知県高知市潮新町2丁目14番8号

TEL 088-833-3412

王業富國基

大正二年
初秋

竹堂後

